

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機構分類コード	人畜毒性	使用時期(回数)	使用回数	ベト病	苗立枯病	菌核病	灰色かび病	黒斑病	黒すす病	株腐病	ピシウム腐敗病	根こぶ病	黒腐病	軟腐病	黒斑細菌病	根朽病
ベジキーパー水	生物農薬	-	*a	-	-										◎			
マスタビース水	生物農薬	-	1	-	-										◎	◎	◎	
ドイツボルドーA水	無機	M1	-	-	-										◎		◎	
オンリーワンFL	DM I	3	1	3				◎										
アミスター20FL	Q o I	11	7	4				◎		◎		◎						
ファンタジスタ顆水	Q o I	11	3	3				◎	◎	◎								◎
メジャーFL	Q o I	11	3	3				◎				◎						
アフエットFL	アミド	7	1	3				◎				◎						◎
カンタスDF	アミド	7	7	2				◎		◎		◎						
モンカットファイン粉剤20D L	アミド	7	*g	2				®										
モンカットFL40	アミド	7	7	3								◎						
レーバスFL	アミド	40	7	3				◎										
バリダシン液5	抗生物質	U18	7	5								◎			◎	◎		
ベジターボDF	抗生物質	19	14	3								◎						
ポリオキシシリンAL溶	抗生物質	19	*d	2								◎						
			14	3				◎										
スミレックス水	ジカボキシミド*	2	14	4				◎										
ロブラール水	ジカボキシミド*	2	7	4				◎				◎						
トップジンM水	ベンゾイミダゾール	1	3	2				◎				◎						◎
ベンレート水	ベンゾイミダゾール	1	7	6				◎										◎
ジマンダイセン水	有機硫黄	M3	30	3				◎										
ペンコゼブFL	有機硫黄	M3	30	3				◎										
キノンドーFL	有機銅	M1	14	3											◎			
リゾレックス水	有機リン	14	7	3								◎						
エトフィンFL	他	22	1	3				◎										
オラクル顆水	他	21	*c	2											◎			
				1											◎			
オラクル粉	他	21	*b	2											◎			
オリゼメート顆水	他	P2	*i	1											◎		◎	
ケンジャFL	他	7	1	3				◎										
スターナ水	他	31	7	3												◎	◎	
セイビアーFL20	他	12	3	3				◎				◎						
ダコソイル粉	他	M5	*b	1											◎			
ダコニール1000FL	他	M5	14	2				◎										◎
タチガレン液	他	32	*h	3										◎				
ネビジン粉	他	36	*b	2											◎			
			*c															
ネビリュウ粉粒	他	36	*b	2				◎							◎			
パレード20FL	他	7	*j	1				◎	◎									◎
			1	3					◎			◎						◎
ピシロックFL	他	U17	1	3				◎					◎					
フェステイバル水	他	40	1	3				◎										
フロンサイドSC	他	29	*b	*e				◎	◎						◎			
			*c	1				◎	◎						◎			

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用 機構 分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ベ リ カ 病	苗 立 枯 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	黒 斑 病	黒 す す 病	株 腐 敗 病	ビ シ ウ ム 腐 敗 病	根 こ ぶ 病	黒 腐 病	軟 腐 病	黒 斑 細 菌 病	根 朽 病
フロンサイド粉	他	29		*b	*e			(R)	◎						◎				
ベルクートFL	他	M7		28	3				◎										
ライメイFL	他	21		7	4			◎											
ランマンFL	他	21		3	4										◎				
				14	1									◎					
				*f	1	☆									◎				
シグナムWDG	QoI・アミド	11・7		7	2		◎	◎		◎		◎							
フォリオゴールドFL	アミド・他	4・M5		14	2		◎							◎					
ベジセイバーFL	アミド・他	7・M5		14	2		◎	◎					◎						
カスミンボルドー水	抗生物質・無機	24・M1		7	4											◎	◎	◎	
ドーマイシン水	抗生物質・有機銅	25・M1		14	2											◎			
グッター水	ベンゾイミダゾール・ベンゾイミダゾール	10・1		7	2				◎										
ニマイバー水	ベンゾイミダゾール・ベンゾイミダゾール	10・1		7	3				◎										
ダコレート水	ベンゾイミダゾール・他	1・M5		14	2		◎	◎											◎
リドミルゴールドMZ顆水	有機硫黄・アミド	M3・4		30	3		◎												
シトラノーFL	有機銅・他	M1・M5		14	2		◎									◎			
カセット水	他・抗生物質	31・24		7	3											◎	◎	◎	
フェスティバルC水	他・無機	40・M1		1	3		◎									◎			
カンパネラ水	他・有機硫黄	40・M3		30	2		◎												
ナレート水	他・有機銅	31・M1		14	3											◎	◎		
ソータルWDG	他・有機リン	31・14		7	3								◎				◎		
カーニバル水	他・他	40・M5		14	2		◎												
プロポーズ顆水	他・他	40・M5		14	2		◎												

*a:発病前～発病初期 *b:播種又は定植前 *c:定植前 *d:子葉展開期以降

*e:2回以内(苗床1回、本圃1回) *f:定植前日～当日 *g:播種時～定植前

*h:出芽時～育苗期 *i:定植時 *j:育苗期後半～定植当日

(R):リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人畜 毒 性	使用 時期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	ア	カ	ア	シ	ヨ	ウ	ハ	ネ	オ	キ	コ	カ	そ
							ブ	ザ	ブ	ロ	ト	ス	キ	オ	イ	マ	タ	ダ	ネ	オ
							ラ	ミ	ラ	コ	イ	ト	モ	ン	リ	オ	マ	ダ	タ	他
							ウ	ハ	ナ	オ	チ	モ	ジ	ヨ	ト	ム	シ	シ	シ	害
							マ	シ	バ	シ	ヨ	ト	ム	シ	シ	シ	シ	シ	虫	
エスマルクDF	BT	11A	*e	-	-				ネ								◎			
エコマスターBT	BT	11A	*e	-	-												◎			
ジャックポット顆水	BT	11A	*e	-	-							◎	◎							
チューレックス顆水	BT	11A	*e	-	-							◎	◎							
フローバックDF	BT	11A	*e	-	-												◎			
スピノエース顆水	スピノシ	5	3	3			◎	◎	◎		◎		マ			◎				
ポタニガードES乳	微生物	-	*p	-	-						◎									
除虫菊乳3	ピレスロイド*	3A	7	5			◎		◎											
アタブロン乳	IGR	15	7	4				◎	◎		◎	◎	マ			◎				
カウンター乳	IGR	15	7	3				◎	◎		◎	◎								
カスケード乳	IGR	15	7	2			◎	◎	◎	◎	◎	◎	マ		◎	◎				
ノーモルト乳	IGR	15	7	2				◎	◎		◎	◎	マ							
ファルコンFL	IGR	18	7	2				◎	◎		◎	◎	マ		◎	◎				
マッチ乳	IGR	15	7	3				◎	◎		◎					◎				
マトリックFL	IGR	18	7	4							◎					◎				
オリオン水40	カーバメート	1A	劇	7	4		◎			◎	◎	マ								
デナボン5%ベイト粒	カーバメート	1A		14	3					◎	◎		◎						コ	ダ
ミクロデナボン水85	カーバメート	1A	劇	21	3					◎	◎									
ラグビーMC粒	殺線虫	1B	*r	1																グ
ネマキック粒剤	殺線虫	1B	*r	1																テ
マイトクリーン水	殺ダニ	21A	7	4					◎											
モベントFL	殺ダニ	23	7	3			◎	◎	◎	◎										
フェニックス顆水	ジアミド*	28	1	3					◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎				
プリロソソ粒	ジアミド*	28	*n		△	◎	◎		◎	◎					◎					
			*o	1		◎	◎		◎	◎					◎					
			*m													◎				
プレバソンFL5	ジアミド*	28	*n	1	▲				◎	◎		◎	◎		◎					
				1	☆		◎	◎		◎	◎		◎	◎		◎				
プレバソン粒	ジアミド*	28	*n	1	△				◎	◎					◎					
			*o	1			◎	◎							◎					
ベネビアOD	ジアミド*	28	1	3			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
ベリマークSC	ジアミド*	28	*n	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					
ヨーバルFL	ジアミド*	28	*n	1	☆	◎	ネ	◎	◎		◎	◎	◎	◎	◎					
				1	3		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
ディアナSC	スピノシ	5	*a	1	☆		◎													
				1	2		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					

キャベツ

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

キャベツ

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類コ ード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使	ア	ア	カ	ア	シ	ヨ	ウ	ハ	ネ	オ	ハ	コ	コ	カ				
						用	ブ	ブ	ブ	コ	シ	ヨ	ウ	ハ	ネ	オ	ハ	コ	コ	カ				
						件	ラ	ミ	ラ	ナ	ロ	ト	ス	モ	キ	オ	イ	マ	コ	カ				
						数	ム	ウ	ハ	ガ	イ	チ	モ	シ	ヨ	ト	ム	シ	ガ	ム	リ	タ		
						類	シ	マ	バ	シ	ウ	シ	ウ	シ	ウ	シ	バ	コ	メ	イ	シ	ガ		
アクタラ顆溶	ネニコノイト*	4A				*a 1 3	☆	◎																
アクタラ粒5	ネニコノイト*	4A				*i 1 *a *Q *d	◆ ★	◎		◎							◎	◎						
アドマイヤー1粒	ネニコノイト*	4A				*d 1		◎																
アドマイヤー顆水	ネニコノイト*	4A	劇			*d 7 2		◎																
アドマイヤーFL	ネニコノイト*	4A	劇			*f 7 2		◎																
アルバリン顆溶 スタークル顆溶	ネニコノイト*	4A				3 2 *f 1		◎			◎	◎							◎					
アルバリン粒 スタークル粒	ネニコノイト*	4A				*d 1 *m		◎		◎	◎													
ダントツ粒	ネニコノイト*	4A				*a 1 *d *Q *c		◎	ネ	◎	◎				◎		◎							
ダントツ溶	ネニコノイト*	4A				*a 3 2		◎	ネ	◎	◎													
モスピラン顆溶	ネニコノイト*	4A	劇			*d 7 5		◎	◎	◎	◎						◎							
モスピラン粒	ネニコノイト*	4A				*d 1 *h		◎		◎	◎		◎			◎								
パダンSG溶	ネイトキシン	14	劇			*r 14 4		◎		◎	◎					◎							ナ	
リーフガード顆水	ネイトキシン	14	劇			*r 7 3		◎	◎	◎	◎					◎							ナ	
プリンスFL	フェルビラゾール	2B	劇			*r 14 2	☆		ネ	◎	◎				マ	◎	◎							
プリンス粒*	フェルビラゾール	2B				*k 1 *Q *c *i		△ ▼		◎							◎							
アグロスリン水	ビレスロイト*	3A	劇			*r 7 5		◎	◎	◎	◎		◎		マ									
アディオソ乳	ビレスロイト*	3A				3 5 21		◎		◎	◎		◎		マ					◎				
ガードベイトA粒	ビレスロイト*	3A				*t 5											◎							

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	ア	カ	ア	シ	ヨ	ウ	ネ	オ	ハ	キ	コ	カ	そ																				
							ブ	ザ	ブ	ロ	ト	ハ	ス	キ	オ	イ	コ	カ	タ	の																				
							ラ	ミ	ラ	コ	イ	ト	モ	ン	リ	マ	ダ	ジ	ノ	ミ	ハ	ム	シ	ン	ン	リ	類	・	ナ	メ	ク	ジ	ン	類	虫					
サイハロン乳	ビレスロイド*	3A	劇	7	3	◎			◎	◎	◎																													
テルスター水	ビレスロイド*	3A		21	4	◎			◎	◎	◎																													
トレボン乳	ビレスロイド*	3A		3	3	◎			◎	◎	◎																													
トレボンMC	ビレスロイド*	3A		3	3				◎		◎									◎																				
フォース粒	ビレスロイド*	3A	劇	*d	1										◎																									
マブリック水20	ビレスロイド*	3A	劇	14	3	◎			◎	◎	◎	◎	◎	マ																										
アニキ乳	マクロライト*	6		3	3				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																								
アフーム乳	マクロライト*	6		1	3				◎	◎	◎	◎	◎	マ						◎																				
オルトラン水	有機リン	1B		30	1	◎	◎		◎	◎	◎	◎	マ																											
オルトラン粒	有機リン	1B		*m	1	◎			◎																															
				*d		◎	◎		◎	◎	◎	◎								◎																				
カルホス微粒F	有機リン	1B	劇	*b	1										◎																									
カルホス粉	有機リン	1B		*b	1										◎																									
サイアノックス乳	有機リン	1B		21	2	◎			◎	◎		若	マ							成																				
ジェイエース溶	有機リン	1B		30	1	◎			◎	◎	◎	◎	マ																											
ジェイエース粒	有機リン	1B		*d	1	◎			◎	◎	◎	◎																												
ダイアジノン水34	有機リン	1B	劇	30	2	◎			◎	◎										◎																			ポ	
ダイアジノン乳40	有機リン	1B	劇	30	2	◎			◎	◎										◎																				
				*b	2										◎																								ケ	
ダイアジノン粒5	有機リン	1B		*d	1										◎																							タ		
				30	2															◎																				
マラソン乳	有機リン	1B		1	5	◎	◎	◎	◎	◎																														
アクセルFL	他	22B		1	3				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																							
アクセルバイト粒	他	22B		7	3									◎		◎																							◎	
ウララDF	他	29		1	2	◎																																		
グレースシア乳	他	30		7	2		◎		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																								
コテツFL	他	13	劇	1	2				◎	◎	◎	◎	◎	マ		◎	◎																							
コルト顆水	他	9B		1	3	◎	ネ																																	
トランスフォームFL	他	4C		1	3	◎	ネ																																	
トルネードエースDF	他	22A		7	2				◎	◎		◎	◎	マ		◎																								
ハチハチFL	他	21A	劇	14	2	◎	◎		◎	◎										◎																				
ファインセーブFL	他	34	劇	3	2		◎		◎	◎																														
プレオFL	他	UN		7	2		ネ		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																								
プロフレアSC	他	30		1	3				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎																								
マイキラー	他	8	劇	14	3																																	◎		

キ
ャ
ベ
ツ

キャベツ(野菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	系統区分	作用機 構分 類 コ ー ド	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	ア	ア	カ	コ	ア	ヨ	ウ	ネ	オ	ハ	コ	カ	ソ
							ブ	ザ	ブ	コ	シ	ロ	ハ	ネ	オ	キ	コ	カ	タ
							ラ	ミ	ラ	ナ	イ	ト	ス	キ	オ	イ	ガ	タ	ノ
キックオフ顆水	ジアミト [*] ・ネ コナイト [*]	28・ 4A		*f	1	☆	◎	◎	◎	◎	◎	◎				◎			
ジュリボFL	ジアミト [*] ・ネ コナイト [*]	28・ 4A		3	3		◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎			
				*s	1	▲	◎	ネ	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎			
				*n	1	☆	◎	ネ	◎	◎	◎	◎							
				*g	1		◎	◎	◎	◎					◎				
				*d	1		◎	◎	◎	◎					◎				
				*i	1		◎								◎				
				*Q	1				◎						◎				
アフアームエクセラ顆 水	マコライト [*] ・ IGR	6・ 15		7	3			ネ	◎	◎	◎	◎	◎	マ		◎			
アクセルキングFL	他・他	21A・ 22B	劇	14	2		◎	ネ	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎			

*:商品により使用時期・使用量・適用害虫等の登録内容が異なる。

★:苗地床に全面土壌混和する。

☆:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方は、土耕栽培による苗には使用できない。

▲:苗地床に灌注処理する。希釈濃度が☆の登録とは異なるので注意する。

△:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

◇:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの床土に均一に混和する。

▼:セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの覆土に均一に混和する。

◆:床土に混和する。

▽:覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する。

株:株元灌注

*a:育苗期後半 *b:播種時又は定植時 *c:地床育苗期 *d:定植時

*e:発生初期(但し収穫前日まで) *f:定植前日～定植時 *g:播種覆土後～育苗期後半

*h:定植前日～定植当日 *i:播種前

*k:播種時～定植前 *m:育苗期 *n:育苗期後半～定植当日

*o:育苗期後半～定植時 *p:発生初期 *q:播種時 *r:定植前まで

*s:播種時～育苗期後半 *t:生育初期

グ:ネグサレセンチュウ ケ:ケラ コ:コオロギ

タ:タネバエ ダ:ダンゴムシ テ:ネグサレセンチュウ及びテンサイシストセンチュウ

ナ:ナメクジ類 ネ:ネギアザミウマ ハ:ハモグリバエ類

ボ:キボシマルトビムシ マ:タマナギンウワバ

若:若齢～中齢幼虫 成:成虫

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長		1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき												
	黒腐病												
	軟腐病												
	菌核病												
	夏まき												
	菌核病												
虫 害	コナガ												
	アオムシ												
	(モンシロチョウ)												
	ヨトウムシ												
	アブラムシ類												
	オオタバコガ												

作 型 一 ; 栽培期 一 ; 収穫期
 病害虫発生消長 一 ; 発生期 一 ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
べと病	生育期	・発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 ジマンダイセン水和剤 400～600倍 ダコニール1000(FL) 1000倍 プロポーズ顆粒水和剤 1000倍 ペンコゼブフロアブル 500～600倍 リドミルゴールドMZ(顆水)● 1000倍	●耐性菌を生じる恐れがあるので連用しない。
菌核病	生育期	1. 発生を認めたら次の薬剤のいずれかを散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 カンタスドライフロアブル 1500倍 スミレックス水和剤 2000～3000倍 トップジンM水和剤 1000～1500倍 ベンレート水和剤 2000倍 ロブラール水和剤 1000倍 2. 発病株は菌核を形成する前に抜きとり、処分する。	3～5月と10～11月頃に、気温が20℃前後で曇雨天が続くと発生しやすい。

キ
ヤ
ベ
ツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	定植前	<ol style="list-style-type: none"> 常発地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 畑の排水を良好にするか、または高畦栽培とする。 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 苗畑は無病地に設けるか土壌消毒し育苗(土壌消毒の項参照)、または消毒した用土でセル育苗を行う。 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 オラクル粉剤 全面処理 30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a ネビジン粉剤 全面処理 20~30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a フロンサイト粉剤 全面処理 30~40kg/10 a 作条処理 15~20kg/10 a 定植前日~当日に次の薬剤をセル苗等に灌注する。 ランマンフロアブル△ 500倍 	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて高温多雨の年に多発し、秋冬どりでは定植の早い作型ほど被害が大きい。 前作にスイートコーンやジャガイモなどを栽培すると、被害の軽減効果がある。 薬剤などは表層10~15cmの土壌と十分に混和する。
	生育期および収穫後	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後の残渣はていねいに処分し、畑にすきこまないようにする。 	△セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5~7ℓ)当り2ℓ
黒腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。 	5月及び9~10月頃に気温が低く、多雨のとき発生しやすい。台風など強風雨により茎葉に傷がつくと多発しやすい。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 発生を認めたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 カセット水和剤 1000倍 キノンドーフロアブル 800~1000倍 ナレート水和剤 800倍 Zボルドー(水)* 500倍 	
軟腐病	播種前	<ul style="list-style-type: none"> 低湿地での栽培をさげ、排水を良好にする。 	病原細菌は風雨や害虫によって生じた傷口などから侵入する。 夏~秋にかけて高温のとき発生しやすい。
	生育期	<ul style="list-style-type: none"> 台風や大雨の後、及び結球初期に、次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 カセット水和剤 1000倍 ナレート水和剤 800~1000倍 Zボルドー(水)* 500倍 	

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種を避け、苗床の過湿に注意する。 2. 土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	病原菌はリゾクトニア菌またはピシウム菌による。
萎黄病	播種前	・発生の秋冬どり栽培では抵抗性品種(YR品種)を栽培する。	キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、コマツナ、カブ、ハボタンなどに発生する。秋どりのキャベツで特に被害が大きい。
	定植前	・本畑は土壌消毒を行う(土壌消毒の項参照)。	
株腐病	定植前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌であるが、本病は孢子により伝搬することがある。 初夏どりの作型で、結球期に降雨が続くと多発しやすい。
	生育期	・次の薬剤のいずれかを予防的に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 セイビアフロアブル20 1000倍 モンカットフロアブル40 2000倍 リゾレックス水和剤 500~1000倍	
アブラムシ類	定植時	・次の薬剤のいずれかを施用する。 オルトラン粒剤 植穴 1~2g/株 モスピラン粒剤 植穴 1g/株 株元 1~2g/株	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 ウララDF 2000~3000倍 オルトラン水和剤 1000~2000倍 ダントツ水溶剤 2000~4000倍 モスピラン顆粒水溶剤 2000~4000倍	
アザミウマ類	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤 5000倍 ディアナSC 2500~5000倍 ハチハチフロアブル 1000倍 プリンスフロアブル# 2000倍	主要なアザミウマはネギアザミウマである。春作では5月下旬ごろから、夏作では定植初期から増加する。 #ネギアザミウマに登録
アオムシ	定植時	・次の薬剤を植穴に処理する。 オルトラン粒剤 植穴 1~2g/株	老熟幼虫は薬剤がききにくいので、小さいうちに駆除する。
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤 2000倍 アフアーム乳剤 1000~2000倍 エスマルクDF* 1000~2000倍 オルトラン水和剤 1000~2000倍	

*野菜類での登録

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ	定植時 (育苗期)	<p>1. 次の薬剤を植穴に処理する。 オルトラン粒剤 植穴 1～2 g/株</p> <p>2. 次の薬剤のいずれかを処理する。 ジュリボフロアブル セル苗等に灌注 #1、#3 200倍</p> <p>プレバソンフロアブル 5 セル苗等に灌注 #1、#3 100倍</p> <p>苗地床に灌注 #2、#3 500倍</p> <p>プレバソン粒剤 株元散布 #4 1 g/株</p> <p>3. 広範な地域で設置可能であれば コナガコン◇を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10 a 又は20cmチューブを200本/10 a 設置する。 コナガコンープラス◇の場合は100～120本/10 a のディスペンサーを設置する。</p>	<p>発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には芯葉を好んで食害し、被害が大きい。</p> <p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当たり0.5ℓ。土耕の育苗床では使用できない。</p> <p>#2苗地床1㎡当たり2ℓ。</p> <p>#3育苗期後半～定植当日</p> <p>#4育苗期後半～定植時◇成虫の交尾阻害が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。</p>
	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アフーム乳剤 1000～2000倍</p> <p>エスマルクDF* 1000～2000倍</p> <p>オルトラン水和剤 1000～2000倍</p> <p>カスケード乳剤 2000～4000倍</p> <p>コテツフロアブル 2000倍</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍</p> <p>トルネードエースDF 1000～2000倍</p> <p>パダンSG水溶剤 1500倍</p> <p>フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍</p> <p>プレオフロアブル 1000倍</p>	<p>抵抗性を獲得しやすいので薬剤を連用しない。</p> <p>*野菜類での登録</p>

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	生育期	<p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。</p> <p>2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>アファーム乳剤 1000～2000倍 エスマルクDF* 1000倍 カスケード乳剤 2000～4000倍 コテツフロアブル 2000倍 スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍</p>	<p>5～6月と9～10月の2回発生する。</p> <p>若齢期は葉裏に集団で生息し、表皮を残し葉肉をかすり状に被害する。</p> <p>老熟幼虫は薬剤が効きにくく、しかも外葉から結球部全体に分散しているため防除効果も低くなる。</p> <p>*野菜類での登録</p>
ハスモンヨトウ	生育期	<p>・広範な地域で設置可能であればフェロディンSL*1を2～4個/ha・トラップ1台当り1個を取付け配置する。</p> <p>1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。</p> <p>2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>オルトラン水和剤 1000～1500倍 ジェイエース水溶剤 1000～1500倍 デルフィン顆粒水和剤*2 1000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍 マッチ乳剤 3000倍</p>	<p>*1アブラナ科野菜での登録。雄成虫の誘因(大量誘殺)が目的。使用に当たっては、「昆虫フェロモンを用いた防除資材」の項参照。</p> <p>春から初冬まで数回の発生をするが、多くなるのは8月下旬からである。</p> <p>*2野菜類での登録</p>
タマナギンウバ	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。</p> <p>スピノエース顆粒水和剤 2500～5000倍 ノーモルト乳剤 2000倍 フェニックス顆粒水和剤# 2000～4000倍 プレオフロアブル# 1000倍</p>	<p>アオムシと混発して同じような被害をもたらす。</p> <p>#ウワバ類での登録</p>
ネキリムシ類	定植時	<p>・次の薬剤のいずれかを施用する。</p> <p>ダイアジノン粒剤5 土壌表面散布 6kg/10a フォース粒剤 全面土壌混和 4kg/10a</p>	
	生育期	<p>・被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。</p>	

キャベツ

キャベツ(野菜類、結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
オオタバコガ	生育期	1. 広範な地域で設置可能であればコナガコン◇を設置する。 2. 若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* 1000倍 ファルコンフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 プリンスフロアブル 2000倍 プレオフロアブル 1000倍	◇コナガコン設置法はコナガの項参照。 結球内部に食入するので外観から加害の有無が判断しづらい。特に9月頃の発生盛期に圃場での発生状況に注意する。 *野菜類での登録
ハイマダラノメイガ (ダイコンシンクイムシ)	育苗期	1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。 土耕育苗は、防虫ネットによるトンネル栽培を行う。 2. 育苗期後半に次の薬剤のいずれかを株元処理する。 ダントツ粒剤 0.5g/株 プレバゾン粒剤 1g/株	幼苗期に加害されると芯止まりとなる。夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。 *野菜類での登録
	幼苗期～生育初期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 アクセルフロアブル 1000~2000倍 アファームエクセラ顆粒水和剤 1000~1500倍 エスマルクDF 1000倍 チューンアップ顆粒水和剤* 2000~3000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチフロアブル 1000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000~4000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバゾンフロアブル5 2000倍	
コオロギ	生育期	・次の薬剤を散布する。 デナボン5%ベイト(粒) 株元散布 3~4kg/10a	